

# 経済情勢座談会

田中 修

## はじめに

李克強総理は7月16日、経済情勢座談会を開催し、研究機関・大学の専門家から内外経済情勢の見方、機械・家電・省エネ・金融等の業種の企業責任者から生産経営の状況を聴取した。会議には、張高麗・劉延東副総理、楊晶・王勇国務委員が同席した。この座談会も、月末の中共中央政治局会議で経済政策の基本方針を決めるまでの一連の政治プロセスの一環である。本稿では、座談会における李克強総理の発言を紹介する（新華網北京電 2013年7月16日）。

現在わが国の経済発展は、多くの有利な条件があるのみならず、これまでなかったような錯綜し複雑な局面に直面している<sup>1</sup>。世界経済の回復は非常に困難であり、国内経済発展における「ジレンマ」の問題が増大している。この局面に対するには知恵と勇気が必要であり、新たな視角・新たな思考法を用い、発展の大勢を正確に認識し、安定の中で前進し、安定の中で力を発揮し、安定の中で質を高め、マクロ政策をしっかり把握し、うまく運用して、施策を統一的に企画し、経済の平穏な運営を維持することが必要である。

内外の実践から見ると、経済の運営には一定の波動が現れており、これには客観的な必然性がある。マクロ・コントロールの主要目的は、経済の大きな上下動を回避することにより、経済運営を合理的な区間に維持することにある。その「下限」は安定成長・雇用の維持であり、「上限」はインフレの防止である。今年も、中央経済工作会議が確定した経済社会発展の年間主要任務を達成しなければならない。これについては、我々は自信・条件・能力を有しているが、多くの努力を払わなければならない。

わが国経済は、既に新たな発展段階に入っており、転換・グレードアップに依拠することを更に重視しなければならない。このような状況下で、経済運営を合理的な区間に維持させるには、既存の有効な方法を引き続きうまく用いるだけでなく、**新情勢に適応し、思考を刷新して新たな措置を運用しなければならない**。安定成長・構造調整・改革促進を統一的に企画・考慮し、科学的なマクロ政策の枠組みを形成し、市場における予想を安定させ、発展のために良好な環境を作り上げなければならない。

経済運営が合理的な区間に維持されているときは、**経済発展方式の転換を主線とし、構造調整を注力点とし、改革のボーナスを配当して、市場の資源配分・自己調節作用を更に好く発揮させ、経済発展の活力・持続力を増強しなければならない**。

---

<sup>1</sup> ゴチックは筆者。

経済運営が上限・下限に迫ったときには、マクロ政策は安定成長あるいはインフレ防止に重点をおき、構造調整・改革促進の中長期的措置と結びつけることにより、経済運営を合理的な区間に維持するようにしなければならない。

合理的な区間と政策枠組みをしっかりと把握するには、マクロ・コントロールの科学性・予見性・的確性を増強しなければならない。戦略的・法則的な問題を深く検討するだけでなく、萌芽的・傾向的な問題を鋭くとらえなければならない。

経済指標の一時的な変化で政策方向を改め、ようやく得た構造調整のチャンス・成果に影響を与えてはならないし、経済運営が合理的な区間から滑り落ち大きな起伏が出現する可能性に対し、警戒と対応・準備を欠いてはならない。

多様な政策手段を総合的に運用することと、市場メカニズムの役割を十分に発揮させることを有機的に結びつけ、イノベーションによる駆動を重視し、現在を安定させるとともに、長期の利を図り、1つの措置で多くの成果を得るようにしなければならない。経済発展方式の転換を推進し、経済成長の内生的動力を増強し、民生を不断に改善して、経済の長期にわたる持続的で健全な発展を促進し、中国経済のグレードアップ版を作り上げなければならない。

(7月18日記)